



全国から300人が参加した

公共事業推進カンファレンス

地方整備局長は

「地域の安全・安心を実現するためにも、三方良しの公共事業推進は重要な考え方であり、そのためにも受注者と発注者は信頼関係を持つことが大切に

任せるのではなく、連携して取り組むことが重要。発注者も現場でのやりがいモチベーションになる」とし、施工効率向上の実現に向け展開している施策を紹介した。事例発表では、三和建設(熊本県

三方良しの公共事業推進研究会(砂子邦弘理事長)が主催する「三方良しの公共事業推進カンファレンス」が19日、福岡市の福岡県中小企業振興センターで開かれた。冒頭にあいさつした砂子理事長は「カンファレンスでは三方良

しの原点である『和』の精神に立ち戻り、次代に引き継ぐものづくりとは何かを提示したい」と強調した。全国から約300人が参加し、会場を埋め尽くした。

出張所長が、それぞれで実践する三方良しの取り組みを紹介した。パネルディスカッション「人材育成と技術者復権、三方良しの和のモノづくり」では、足立技術調整管理官、木寺佐和記建設コンサルタンツ協会九州支部理事(西日本技術開発監査役)、三方良しの公共事業推進研究会会員の深松努

深松組社長がパネリストとなり、岸良裕司ゴールドラットコンサルティング日本代表の進行で活発な議論を交わした。カンファレンスは日刊建設通信新聞社が企画協力した。

三方良しの「和」議論

なる。本日の活発な議論から、新しい知恵を生んでもらいたい」と呼び掛けた。

人吉市)の佐藤圭社長、二二北路(札幌市)の多田真工事長、磯部組(高知県奈半利町)の宮内保人技術部長、上田工業(宮崎県延岡市)の奈須亮次土木部主任と九州整備局延岡河川国道事務所の関信彰延岡

新聞社が企画協力した。

来賓の金尾健司国土交通省九州

企画部技術調整管理官は「企業に

マに講演した足立辰夫九州整備局

建設通信新聞

